



中東情勢分析発表会：「誰が「イスラーム国」を育てたのか」（高岡豊上席研究員）

2月12日（14:00-15:30）、日本記者クラブ10階ホールにて第11回「中東情勢分析発表会」を開催しました。

講師：高岡豊 中東調査会上席研究員

演題：「誰が「イスラーム国」を育てたのか」

講師より、先般の日本人2名の殺害事件などで注目を集めた「イスラーム国」について、アラブ諸国・欧米諸国のムスリムに不平不満があるだけで直ちに現在のように勢力を伸ばすわけではないと指摘がありました。講師は、「イスラーム国」に限らず何がしかの政治・社会運動が成功を収めるには、運動の大義名分を適切に設定・広報すること、運動の存在や伸張を許す外部の環境との相関が重要であると分析・解説しました。



質疑では、テロリストとして組織を運営する幹部と、戦闘や自爆攻撃で消耗される末端の戦闘員からなる「イスラーム国」の構造についてや、「イスラーム国」対策の展望についての質問が寄せられました。

講演内容は、講師の個人的見解であり、講師の所属先の立場や見解、認識を代表するものではありません。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL：<http://www.mei.j.or.jp/>